



浦添市医師会報

The Journal of the URASOE Medical Association

新春号

Vol.93

2024 (令和6年)

謹賀新年

pickup

令和6年新年のご挨拶
第24回うらそえ市民公開講座
第62回地区医師会連絡協議会
浦添市医師会忘年会

CONTENTS

- 01 新年のご挨拶
- 02 第150回浦添市医師会学術講演会
「エンデミック時代のコロナ診療」
琉球大学大学院医学研究科 第一内科 教授・医学博士 山本 和子先生
- 05 第151回浦添市医師会学術講演会
「沖縄透析研究(Okinawa Dialysis Study,OKIDS)～概説と展望～」
名嘉村クリニック 臨床研究支援センター長 井関 邦敏先生
- 10 第24回うらそえ市民公開講座報告
- 14 第63回浦添市医師会ゴルフコンペ 比嘉眼科 石田 航先生
- 17 二水会
「医療事故やクレーム発生時の医療者と患者の対話の支援～医療メディエーターの関わり～」
中頭病院 医療安全推進室 課長 平良 喜美恵氏
- 21 令和5年度多職種連携・浦添市介護支援専門員等従事者研修会報告
- 23 浦添市在宅医療・介護連携支援センター市民公開講座報告
- 25 第62回地区医師会連絡協議会報告
- 26 令和5年浦添市医師会忘年会
- 28 入会・退会・異動報告
訃報
- 29 表彰
- 30 理事会報告
- 32 講演会・研修会等のご案内
- 33 事務局からのお知らせ
浦添市医師会提供ラジオ番組
「ゆんたく健康トーク」出演予定

表紙の写真



龍の置物

2024年あけましておめでとうございます。今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」。十二支の中で最も縁起が良いとされており、運気が上昇して夢が叶いやすい年といわれています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症流行期を終え、制限されていた様々なイベントが再開され、日常生活に賑わいが戻ってきました。

今年も皆様にとって、昇龍の如く飛躍できる一年となりますよう祈念致しております。

新年のご挨拶

会長 洲鎌 盛一



新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様方には、旧年中賜りましたご支援に深く感謝申し上げます。2類相当だった新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から“5類感染症”になりました。その間コロナワクチン集団・個別接種に加えて発熱外来、コロナ遠隔・在宅診療に多大なご尽力をいただき有難うございました。

新年早々ですが、2024年4月に行われる診療報酬改定は6年に1度の医療、介護、障害福祉サービスのトリプル改定です。第8次医療計画、外来医療、医師の働き方改革、医療DXのさらなる推進、介護サービスとの連携が診療報酬改定のポイントになっています。昨年11月の時点における財務大臣の諮問機関「財政制度等審議会」の提言では、診療報酬本体をマイナス改定とすることが議論されています。今年度の診療報酬トリプル改定は、病院・診療所の運営、経営に大きく関わる問題と認識しています。患者・高齢者・障害を持つ方にとって、より良い改定になればと願っているところです。また、第8次医療計画(5疾病・6事業)には新興感染症対応の基本的な考え方が示されており、猛威を振るった新型コロナ感染症を念頭にした取り組み・対応が求められています。

世界的にはロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ自治区ガザ地区の人道悲劇、地球温暖化等々あり、喜ばしい新年の挨拶文にしては、暗くてふさわしくないと思っています。ですが、明るい辰年にするためにも、私たち浦添市医師会は基本理念である、1. かかりつけ医機能の推進 2. 病診行連携の推進 3. インフォームドコンセントの推進 4. 積極的な情報発信 を念頭に、医師会活動を活性化させていく必要があると考えています。より一層の社会貢献が求められる年になりそうです。会員間の親睦・医師会活性化のためにも二水会、学術講演会、親睦ゴルフ、ボウリング大会、旧正新年会などを通し、交流を深め、今年も頑張っていきたいと思っています。その他、ご提案があれば事務局まで遠慮なく声をかけてくださるようお願いいたします。

最後に本年も、医師会運営にあたり、理事会・事務局へのご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いするとともに、皆様にとって、心身ともに健康で、よき未来、希望の持てる令和6年になりますよう祈念いたします。

浦添市医師会学術講演会

第150回浦添市医師会学術講演会

日時:令和5年9月20日(水)19:00

場所:浦添市医師会事務局・ZOOM

日本医師会生涯教育講座1.0単位

カリキュラムコード:8(感染対策)、12(地域医療)



『エンデミック時代のコロナ診療』

講師:琉球大学大学院医学研究科

第一内科 教授・医学博士 山本 和子 先生

座長:かりまた内科医院

院長 狩俣 洋介 先生



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2023年5月8日より感染症法5類へ移行し、国内では日常が戻りつつあります。しかし沖縄県は2023年6月末に流行のピークを迎えた所謂「第9波」を経験しました。その後も感染者が持続し、まさにコロナのエンデミック時代に突入したことを実感させられます(図1)。COVID-19の原因ウイルスであるSARS-CoV-2ウイルスは、現在でもその変異を繰り返し、講演時にはオミクロン変異株のXBB亜系統の中でもEG.1が増加していました。XBB亜系統はBA.2から派生し、ウイルス増幅効率と免疫回避能が高いことが明らかにされています。当講座が中心となって沖縄県内関連4施設で第9波の間に集積したCOVID-19入院患者452名の調査によると、入院前に外来を受診してCOVID-19と診断されたにも関わらず、抗SARS-CoV-2ウイルス薬が処方されていたのは僅か6%でした。外来での抗SARS-CoV-2ウイルス薬の処方率は重症化抑制と関連していました(オッズ比0.2倍)。また、オミクロン株に対応したワクチン接種が重症化抑制と関連していました(オッズ比0.4倍)。これらの結果からも、沖縄県で低いワクチン接種率と抗ウイルス薬処方率を上げていく必要があります。

さらに今回の解析で見えてきたのは、COVID-19入院患者で呼吸器細菌重複感染を合併すると重症化するリスクが上がる(オッズ比8.1倍)ということです。私が代表で行った国内レジストリ研究においても、COVID-19入院患者で呼吸器細菌重複感染を合併すると30日死亡率が上昇することが明らかとなっています。呼吸器細菌重複感染を合併しやすいのは高齢者、心血管、脳神経、腎疾患を有する患者であり、そのような背景をもつ患者がCOVID-19で入院する場合は、細菌重複感染の細菌学的検査を行い、必要であれば抗菌薬治療も同時に併用することが望ましいと考えます。現在はCOVID-19のみならずインフルエンザも流行しており、初めてのツインデミック時代とも言えます。そのような中で、急性呼吸器症状のある入院患者あるいは外来患者であっても治療対象であれば、SARS-CoV-2とインフルエンザの両方を同時に検査することが推奨されています(図2)。適切な迅速診断と早期の治療介入

が患者の重症化を防止する重要なポイントです。

外来で抗ウイルス薬を処方する意義は、重症化の予防、医療逼迫の抑制、QOLの改善、生産性の向上、感染対策、後遺症の抑制など多岐に渡ります。抗インフルエンザ薬はノイラミニダーゼ阻害薬が主体であり、内服・吸入・点滴の剤型が存在し特徴を理解して投与しましょう。唯一のキャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤であるバロキサビルマルボキシルは1回投与で良いこと、ウイルス減少効果が早く見込める特徴があります。また抗インフルエンザ薬は予防投与が可能であるため、院内感染対策を行いやすいという利点があります(図3)。軽症のCOVID-19患者に対して投与可能な抗SARS-CoV-2ウイルス薬は現在4種類あり、点滴(レムデシビル)、内服(モルヌピラビル、ニルマトレルビル/リトナビル、エンシトレルビル)があり、その機序はRNA複製の抑制(レムデシビル、モルヌピラビル)とタンパク合成抑制(ニルマトレルビル/リトナビル、エンシトレルビル)に分類されます(図4・図5)。それぞれの薬剤の特徴を知って、診断された患者に早期投与することが望ましいです。発症早期であれば、重症化リスクの有無や常用薬、腎機能などによって薬剤選択を行います(図6)。抗SARS-CoV-2ウイルス薬投与による後遺症の抑制も次々と報告されており、その点からもCOVID-19患者に対しては可能な限り抗SARS-CoV-2ウイルス薬を処方していくことが重要と考えます。

浦添市医師会の先生方と協力して、沖縄県でのコロナ診療をより充実させて医療逼迫を防いでいきたいと考えています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

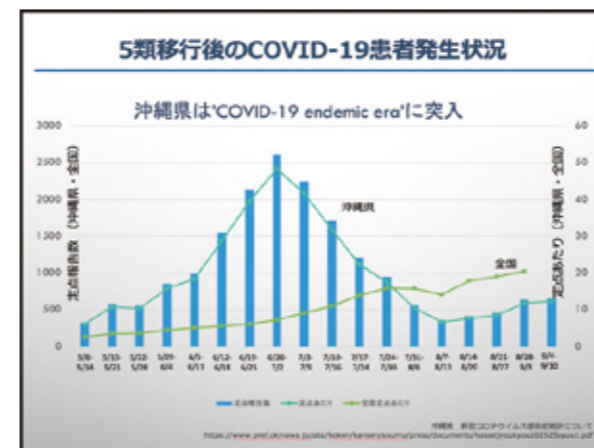


図1

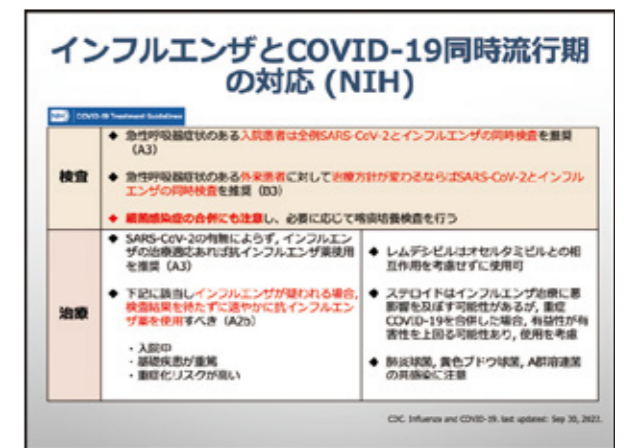


図2

薬物分類	ノイラミダーゼ阻害薬	キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬
経口製剤	オセルタミビル ゾナメビル	バロキサビル マルボキシル
点滴製剤	レムデシビル	レムデシビル
吸入製剤	マキシマ	マキシマ
経口製剤	モルヌピラビル	ニルマトレルビル リトナビル
経口製剤	エンシトレルビル	エンシトレルビル
経口製剤	ゾフルーザ	ゾフルーザ

図3

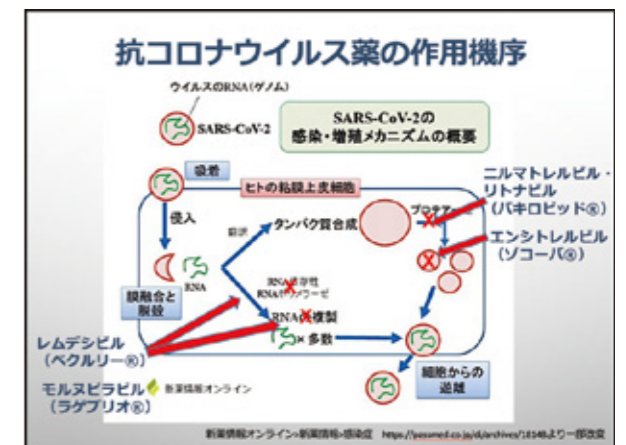


図4

商品名	ペクルーホ	ラヴリオホ	パネロビットホ	ソコーホ
一般名	レムデシビル	モルヌピラビル	ニルマレルビル/リトナビル	エンシトレルビル
錠剤の特徴	点滴剤	大きい錠剤	2種類を内服	小さい錠剤
治療対象者	重症化因子を有する軽症～重症	重症化因子を有する軽症～中等症	重症化因子を有する軽症～中等症	症状の比較的強い軽症
対象年齢	12歳以上	18歳以上	12歳以上	12歳以上
重症化因子までの期間	7日以内	5日以内	5日以内	3日以内
投与量	初日200mg、以後100mg/日	800mg 1日2回	300/100mg 1日2回	初日375mg以後125mg 1日1回
投与期間	3日間	5日間	5日間	5日間
腎臓による調節	不要	不要	必要	不要
妊婦への授与	可	不可	可(利益性)	不可
副作用	ほぼない	ほぼない	多い	多い
禁忌	不要	不要	不要	必要
エビデンス	ハイリスク者で重症化抑制、重症でオミクロン感染抑制	ハイリスク者で重症化抑制、重症でオミクロン感染抑制	ハイリスク者で重症化抑制、重症でオミクロン感染抑制	オミクロン感染抑制
薬価(1処方セット)	24万7,900円	9万4,312円	9万9,027円	5万1,051円

図5

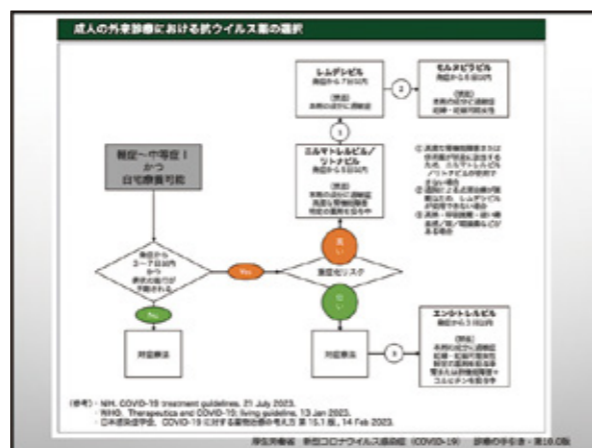


図6

浦添市医師会学術講演会

第151回浦添市医師会学術講演会

日時:令和5年11月15日(水)19:00

場所:浦添市医師会事務局・ZOOM

日本医師会生涯教育講座1.0単位

カリキュラムコード:74(高血圧症)、76(糖尿病)



座長:牧港中央病院
腎臓内科部長・透析室長 小林 竜司 先生



講師の琉球大学大学院 医学研究科
第一内科教授・医学博士 山本和子先生



会場の様子



講演後の質疑応答と懇親会では様々な質問や感想が飛び交いました



『沖縄透析研究(Okinawa Dialysis Study, OKIDS)』

～概説と展望～



講師:名嘉村クリニック臨床研究支援センター¹⁾、沖縄県人工透析研究会²⁾
臨床研究支援センター長 井関 邦敏 先生^{1,2)}

はじめに

浦添市医師会の先生方には日本腎臓学会のFROM-J研究およびREACH-J研究(スライド1)で大変お世話になっています。沖縄県では1971年6月に維持透析が開始され2020年に50周年を迎えました。本土復帰後も施設数の増加は緩やかで1974年までは一カ所しかありませんでした。2010年前後より閉院する施設も出始め現在は74施設が稼働中です(スライド2)。1983年より沖縄県人工透析研究会が年に一度開催され、2023年度に40回目を迎えました(スライド3)。

本日は1989年4月琉大赴任を契機に実施している沖縄透析研究(Okinawa Dialysis Study, OKIDS)について概説し、今後の研究の展望についても触れたいと思います。

OKIDSの概説

対象は慢性腎臓病(chronic kidney disease, CKD)の悪化により血液透析または腹膜透析を導入され、1か月以上生存した透析・移植患者および県外からの移住患者です。非居住者(旅行および短期滞在者)、外国人は除外しました。県内全施設の皆様の協力を得て当該施設の内部資料および関連施設での病歴調査により確認し、急性腎不全が疑われる症例は可及的に除外しています。登録患者数は1971-1990年(1,982例)、

1971-2000年(5,246例)と増加し、現在調査中の1971-2020年ではおよそ13,500例前後になると予想しています。

日本透析医学会の調査によると2020年の年度末患者総数は348,000(沖縄4,748)、人口100万対で2,754人(沖縄3,234人)、透析施設数は4,437カ所(沖縄74カ所)となっています。沖縄県では1986年より県内の施設で腎移植が施行されていますが、2000年までの腎移植数は全体の4%(N=208)に過ぎません。腎移植患者は年齢、性、糖尿病の有無、透析導入年度、合併症の有無等で補正しても生命予後は良好で、死亡のハザードリスク比は0.33(95%信頼区間:0.18-0.59)でした。最近増加している比較的高齢の配偶者間で実施される先行的腎移植の予後改善効果は未検討です。

1) 透析患者の死亡危険因子(スライド4)

最も重要なアウトカムは生死(死因)です。維持透析患者では自宅死亡、事故死を除けば透析施設ないし入院施設での死亡が大半です。沖縄県では患者の県内施設間移動が多く県外への転出、県外からの転入は比較的少ないのが特徴です。2000年までは県外への転出は61例(1.2%)でした。累積生存率は88.6%(1年)、66.5%(5年)、48.2%(10年)、および29.3%(20年)でした。検討した死亡危険因子では透析前の低アルブミン血症(<3.5g/dL)が最も強力でした。体液量増加による希釈も否定できませんが栄養状態の不良が示唆されます。また透析患者では脳出血が多く、心筋梗塞はそれほど多くないことを報告しました。透析導入数、年度末患者数は増加傾向で、導入時平均年齢は高齢化していますが生存率の有意な低下は認められませんでした。維持透析は週3回、一回4時間が標準で、諸外国に比し患者のコンプライアンスが良好なことも予後良好の要因に寄与していると考えられます。

2) 透析導入の予測因子(スライド5)

透析患者の予後改善には保存期CKDの管理も重要です。沖縄県総合保健協会(現、健康づくり財団)の全面的協力により1983年(および1993年)の健診受診者と透析導入登録患者データを突合しました(スライド6)。透析導入発症のカット・オフ値は血清クレアチニンが男性で1.4(酵素法で1.2)mg/dL、女性で1.2(酵素法で1.0)mg/dLで、試験紙法の蛋白尿でみると10年目の累積発症率が蛋白尿(3+以上)で10%、蛋白尿(2+)で5%に達しました。連続して受診した健診受診者においても蛋白尿の増加は有意な透析導入の危険因子で、肥満(BMI \geq 25kg/m²)は男性でのみ有意な透析導入の発症危険因子でした。

CKDの早期発見、早期介入は透析導入の発症阻止に最も有効と考えられます。しかしながら、一般住民でのスクリーニングの対象、頻度に関して国際的コンセンサスは得られていません。しかし、糖尿病、高血圧、肥満等のハイリスク患者ではCKDスクリーニングが強く勧められています。わが国では1970年代より試験紙法による蛋白尿検査が一般化しています。メタボリック症候群、肥満はライフスタイルの修正により改善し、結果的に透析

導入も阻止できると期待され、また医療費の削減にもつながることが示されています。

今後の展望

これまで私が携わっている国内の研究コホートをまとめました(スライド7)。日本腎臓学会の研究班では特定健診受診者を対象にCKDに関する多くの論文を発表しています。現在、OKIDSの資料収集と並行して沖縄県の一般住民の健診データ(1983年-2020年)の収集も続けています。社会環境やライフスタイルは時代の変遷につれて変化していますので、OKIDSでも新たな解析が必要です。

現在、非常勤で勤務している浦添市内の2つのクリニックでも臨床研究を実施しています。徳山クリニックでは外来のCKD患者において腎機能低下速度、透析導入率を観察しています。名嘉村クリニックでは終夜睡眠ポリグラフ(polysomnography, PSG)検査データベースを元に予後調査を行っています。最近、SAS患者における持続陽圧呼吸療法(continuous positive airway pressure, CPAP)の生命予後改善効果を報告しました。透析患者でも同様な効果が認められるか今後の検討課題です。

これまで住民健診の断面での健診結果をもとに予後解析を行ってきましたが、今後は経時的変化との関連も新たな課題です。とくに腎機能低下の将来予測には複数回のデータを用いたパターン解析が必要となります(スライド8)。

むすび

OKIDSにて検討した透析患者の死亡危険因子、発症危険因子に関するこれまでの発表論文を中心に概説しました。今後は作成中のOKIDS50(1971-2020)のコホートを元に多くの研究課題について取り組む予定です。

透析患者の生命予後はかなり改善しつつありますが、QOLおよび栄養状態はまだまだ一般住民に比し劣っています。治療可能な因子を最大限にコントロールすることで患者のQOL、予後はまだまだ改善しうると期待しています。

謝辞

調査の過程で快く協力いただいた浦添市医師会の会員施設および沖縄県内全施設の透析スタッフ(看護師、臨床工学士、看護助手、クラーク)の方々に深謝いたします。

参考文献

1. 井関邦敏. 沖縄県における透析療法について 1971 ~ 2010. 九州人工透析会誌 2016;1:56-63.
2. 井関邦敏. CKD の臨床疫学的研究—これから—. 日腎会誌 2016;58(8):1261-1266.
3. 井関邦敏, 比嘉敬, 古波蔵健太郎. 総説: 沖縄県における透析療法 50 年史 (1971 ~ 2020 年) ~ 沖縄透析研究 50 (Okinawa Dialysis Study: OKIDS50) ~. 透析会誌 2022;55(11):1-7.
4. 井関邦敏, 比嘉啓, 古波蔵健太郎. 総説: 沖縄県人工透析研究会 40 年史 (1983-2023). 透析会誌 2023;56(9):333-339.
5. Nakamura K, Nakamura H, Tohyama K, et al. Survival benefit of continuous positive airway pressure in Japanese patients with obstructive sleep apnea: a propensity-score matching analysis. J Clin Sleep Med. 2021;17(2):211-218.

FROM-J協力医師		
地区	医院	先生
浦添地区医師会	浦西医院	仲間 清太郎 先生
浦添地区医師会	かまた内科医院	狩俣 陽一 先生
浦添地区医師会	下地内科	下地 克佳 先生
浦添地区医師会	名嘉村クリニック	名嘉村 博 先生
浦添地区医師会	まちなと内科クリニック	平良 雅裕 先生
浦添地区医師会	徳山内科医院	徳山 清公 先生
浦添地区医師会	浦添総合病院健診センター	久田 友一郎 先生
REACH-J協力医師		
浦添地区医師会	徳山クリニック	徳山 清之 先生

図 1

沖縄県透析施設名簿			
施設名	開設	施設名	開設
1 浦添地区	1971.05	31 沖縄県立病院	1983.05
2 浦添地区	1972.05	32 沖縄県立病院	1984.01
3 浦添地区	1973.05	33 浦添地区	1984.12
4 浦添地区	1974.01	34 浦添地区	1985.04
5 浦添地区	1975.04	35 浦添地区	1985.05
6 浦添地区	1976.05	36 浦添地区	1986.03
7 浦添地区	1977.05	37 浦添地区	1986.05
8 浦添地区	1978.05	38 浦添地区	1986.05
9 浦添地区	1979.05	39 浦添地区	1986.05
10 浦添地区	1980.05	40 浦添地区	1986.05
11 浦添地区	1981.05	41 浦添地区	1986.05
12 浦添地区	1982.05	42 浦添地区	1986.05
13 浦添地区	1983.05	43 浦添地区	1986.05
14 浦添地区	1984.05	44 浦添地区	1986.05
15 浦添地区	1985.05	45 浦添地区	1986.05
16 浦添地区	1986.05	46 浦添地区	1986.05
17 浦添地区	1987.05	47 浦添地区	1986.05
18 浦添地区	1988.05	48 浦添地区	1986.05
19 浦添地区	1989.05	49 浦添地区	1986.05
20 浦添地区	1990.05	50 浦添地区	1986.05
21 浦添地区	1991.05	51 浦添地区	1986.05
22 浦添地区	1992.05	52 浦添地区	1986.05
23 浦添地区	1993.05	53 浦添地区	1986.05
24 浦添地区	1994.05	54 浦添地区	1986.05
25 浦添地区	1995.05	55 浦添地区	1986.05
26 浦添地区	1996.05	56 浦添地区	1986.05
27 浦添地区	1997.05	57 浦添地区	1986.05
28 浦添地区	1998.05	58 浦添地区	1986.05
29 浦添地区	1999.05	59 浦添地区	1986.05
30 浦添地区	2000.05	60 浦添地区	1986.05

図 2

沖縄県人工透析研究会 歴代会長	
開催年度	大会長
第1回	1983年 野村 正一 (第1)
第2回	1984年 大友 寛 (第2)
第3回	1985年 山崎 隆 (第3)
第4回	1986年 斎藤 隆 (第4)
第5回	1987年 中野 邦夫 (第5)
第6回	1988年 宮崎 浩 (第6)
第7回	1989年 宮崎 浩二 (第7)
第8回	1990年 大友 寛 (第8)
第9回	1991年 斎藤 隆 (第9)
第10回	1992年 宮崎 浩 (第10)
第11回	1993年 上野 茂 (第11)
第12回	1994年 徳山 清之 (第12)
第13回	1995年 中野 邦夫 (第13)
第14回	1996年 宮崎 浩 (第14)
第15回	1997年 斎藤 隆 (第15)
第16回	1998年 野村 正一 (第16)
第17回	1999年 中野 邦夫 (第17)
第18回	2000年 大友 寛 (第18)
第19回	2001年 斎藤 隆 (第19)
第20回	2002年 宮崎 浩 (第20)
第21回	2003年 野村 正一 (第21)
第22回	2004年 大友 寛 (第22)
第23回	2005年 斎藤 隆 (第23)
第24回	2006年 宮崎 浩 (第24)
第25回	2007年 中野 邦夫 (第25)
第26回	2008年 宮崎 浩二 (第26)
第27回	2009年 大友 寛 (第27)
第28回	2010年 斎藤 隆 (第28)
第29回	2011年 宮崎 浩 (第29)
第30回	2012年 野村 正一 (第30)
第31回	2013年 上野 茂 (第31)
第32回	2014年 中野 邦夫 (第32)
第33回	2015年 斎藤 隆 (第33)
第34回	2016年 宮崎 浩 (第34)
第35回	2017年 斎藤 隆二 (第35)
第36回	2018年 大友 寛 (第36)
第37回	2019年 野村 正一 (第37)
第38回	2020年 宮崎 浩 (第38)
第39回	2021年 大友 寛 (第39)
第40回	2022年 斎藤 隆 (第40)
第41回	2023年 野村 正一 (第41)
第42回	2024年 大友 寛 (第42)

図 3

透析患者の死亡危険因子
(Iseki K, et al. Clin Exp Nephrol 8:89-97, 2004)

有意な因子: 年齢、男性、原疾患 (糖尿病、腎硬化症)、透析歴、導入前併症 (心疾患、脳血管障害)、高血圧、頻脈、低アルブミン血症、低コレステロール血症、CRP高値

冠動脈石灰化、導入後のイベント (脳卒中、心筋梗塞、悪性腫瘍)

導入時検査所見 (低アルブミン、高K、低Na血症)

透析会誌 55(11):627-633, 2022

図 4

透析導入に至る危険因子
(Iseki K. Clin Exp Nephrol 9:5-14, 2005)

有意な因子: 男性、蛋白尿、血尿、高血圧

血液検査: 血清クレアチニン高値、高血糖

既往歴: 脳卒中、心筋梗塞

肥満 (とくに男性)、貧血、高尿酸血症 (女性)

有意でなかった因子: 年齢、脂質代謝異常

不明 (未検討): 家族歴 (高血圧、CKD)、喫煙

透析会誌 55(11):1-7, 2022

図 5

沖縄透析研究
Okinawa Dialysis Study (OKIDS)

<p>住民健診受診者</p> <p>沖縄県総合保健協会 (Okinawa General Health Maintenance Association (OGHMA))</p> <p>沖縄県下の全地域を対象に住民健診、職域健診を実施</p> <p>1983年度より健診結果をコンピュータ登録</p> <p>1983年度: 106,182人</p> <p>1993年度: 143,948人</p> <p>Kidney Inr 43: 800-803, 1996</p> <p>Kidney Inr 43: 363-371, 1996</p>	<p>透析患者コホート</p> <p>沖縄県人工透析研究会 (Okinawa Dialysis and Transplant Association (ODTA))</p> <p>1971年以降の沖縄県下の全慢性透析患者を登録</p> <p>5,246人 (1971-2000年度)</p> <p>定期的な透析療法に導入され一ヶ月以上生存した症例 56例</p> <p>定期健診、協力医師78名</p> <p>Kidney Inr 43: 404-409, 1993</p> <p>Kidney Inr 43: 642-673, 2002</p>
---	---

● 透析導入患者の特定、病歴調査

● 透析導入の予測因子

図 6

コホート研究 (国内)

1. 沖縄透析研究 (Okinawa Dialysis Study, OKIDS): 沖縄人工透析研究会 (ODTA) 1971 - 2000 (N=5,246), 1971 - 2020 (50年)
2. 沖縄県総合保健協会 (Okinawa General Health Maintenance Association, OGHMA) 沖縄健診づくり推進 (Okinawa Health Promotion Foundation, OHPF) 1983年 (N=106,182), 1993年 (N=143,948), 2003年 (N=154,019) "末期腎不全の予測因子: OKIDS vs. OGHMA"
3. 日本腎臓学会
 - 1) 特定健診受診者コホート (渡辺昭、木村明): 国民健康・協会健康 2008年度調査 (68万人), 縦断調査 (~2012年), 死亡前向き調査
 - 2) 腎臓病健診づくり推進 (日本腎臓学会) 多生科学研究 (渡辺昭、今井明)
 - 3) 日本透析導入患者コホート研究 (Japan Dialysis Cohort Study, JDCS)
 - 4) 戦略研究 (FROM-J, 2008年度~), 中部、南部、群馬、浦添の4地区医師会 4地区医師会にて31名の「かかりつけ医」1,230名のCKD患者が登録
 - 5) 糖尿病性腎臓病コホート (和田田) 田中クリニック糖尿病専門外来, N=1,380
4. 日本透析医学会: 健診調査委員会データベース (OKIDS) 1983年以降の登録患者 (N>70万人), 委員会研究 (23件), 公衆研究 (19件)
5. 浦添地区医師会: 健診センター (年間2万人), 腎臓内科/透析施設が協力
 - 徳山クリニック: 腎臓内科医の外来患者を登録 (N=3,141)
 - 名嘉村クリニック: 腫瘍科専門外来の受診者を登録 (N>10,000)

図 7

今後の研究計画

1. 透析導入者 (OKIDS50) との突合 1983-2020: 37年追跡 17年で420人, 37年では? SCr, UP, BP, BMI, Hb 複数データとの関連
2. 健診受診者の背景因子の変遷 1983, 1993, 2003, 2013, 2023年
3. 健診受診者の時系列化: 1983~2020年 1回のみ, 2回以上, 10年間隔, 10年連続 腎機能の低下速度 (遅い例, 早い例)

図 8



講師の名嘉村クリニック臨床研究センター長 井関邦敏先生



講演の様子



質疑応答では多くの質問が寄せられました



懇親会の様子

第24回うらそえ市民公開講座(報告)

日時：令和5年9月16日(土) 14:30
場所：アイム・ユニバースてだこホール市民交流室



広報・会員親睦担当理事 照屋 徹

2023年5月に新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行にともない、2023年度の『うらそえ市民公開講座』は4年ぶりに対面・集合形式で行うことができました。

実行委員会では今回のテーマを決めるにあたり、フレイル・ロコモやウイルス対策、認知症などの様々な項目が上がりました。しかし、各々の項目についてはこれまでに取り上げられておりました。そこで、それぞれに関連することは何かを考えた際に食が様々な問題に影響するのではないか、という認識に至りました。

沖縄はイタリアのサルディーニャ島、コスタリカのニコジャ半島、ギリシャのイカリア島、米国カリフォルニア州のロマリンダと五大長寿の地域：ブルーゾーンとして2005年の「ナショナル・ジオグラフィック」で取り上げられました。皮肉なことに、同誌に取り上げられた2005年の都道府県別平均寿命では沖縄の女性は1位を維持していましたが、男性は25位で既に全国平均を下回る状況で、今年に至っては女性16位、男性は43位と下降線を辿っています。そこで今回のテーマは、かつての健康長寿県沖縄の現状を踏まえ「もう一度考えよう食生活～すこやかな明日のため～」とさせていただきます。市民の皆様にとりまして興味を持ちやすい内容であり、我々の食生活を見つめ直す良い機会となるのではと考えました。

講師には一般社団法人トータルウェルネスプロジェクトオキナワ代表理事で管理栄養士の伊是名カエさんといたしました。伊是名カエさんは「沖縄から元気と健康を食を通して伝えていく」をコンセプトに健康長寿沖縄の復活、沖縄食材の消費拡大、沖縄食文化の継承を目的に食に関する講演や企業への健康サポート、料理教室の運営、レシピの開発など多岐にわたり活動されており今回のテーマについて適任と考えました。当日は164名の来場者をお迎えし、I部では伊是名さんに「長寿が残した食のメッセージ～すこやかな明日のために～」の題で基調講演をしていただきました。健診結果の活用の仕方や栄養素の摂り方、沖縄の食生活や食材の特色、実践に至るまでをご講演いただきました。講演では、減塩の工夫として汁物では具材を多くすることで塩分摂取を抑えられることや沖縄の伝統料理がなぜ健康長寿を維持できたのか、また島野菜の特徴、さらにライフスタイル別の実践法に至るまでを分かりやすく講演していただきました。II部では引き続き講師の伊是名さんに加え、徳山クリニック血液浄化センター長の知念さおり先生と牧港中央病院管理栄養士の下地千乃さんをパネリストに迎え、FM21パーソナリティーの城前ふみさん、私の5名がパネルディスカッション形式で来場者からの質問に対しお答えしました。来場者に対するアンケートでは概ね好評で、来場の動機で最も多い回答は、テーマに興味・関心があったから、とのことで回答者の87%を占めました。また、食の大切さや沖縄野菜の調理法など理解しやすかったとの感想も多くみられました。

今後も市民の皆様が興味をいただける市民公開講座を企画していきたいと考えております。医師会会員の皆様には引き続きご意見やご協力を宜しくお願いいたします。

うらそえ市民公開講座に参加して

(一社)トータルウェルネスプロジェクトオキナワ

管理栄養士・健康運動指導士・琉球料理传承人 代表理事 伊是名 カエ



9月に行われたうらそえ市民公開講座にて「長寿が残した食のメッセージ」と題して講演をさせていただきました。1985年の都道府県別平均寿命は沖縄県は男女ともに全国1位だったのが、2020年は男性43位、女性16位になったことをお伝えし、長寿の方が多かった時代と現代の食生活で何が変わったのか、何かできることはないかをご提案させていただきました。

なかなか好転しない沖縄県の健康状態ですが、県民が健康になることをひとつでも取り組み、一步一步進んでいけば健康長寿沖縄へ到達すると思っています。何か取り組んでいきましょう。浦添市医師会の皆様を始め、関係者の皆様大変お世話になり感謝申し上げます。

貴重な機会を頂きありがとうございました。

うらそえ市民公開講座に参加して

徳山クリニック

血液浄化センター長 知念 さおり



急遽決まったとは思えないほど落ち着いた照屋先生と城前ふみさんの楽しい司会のもと開催されました今回の市民公開講座は、食がテーマでした。

伊是名カエさんの講演は沖縄の食の現状と改善のための実践方法が具体的に示され、参加した方が今日からできる内容が盛りだくさんでした。また、講演後の質問も数多く寄せられ、管理栄養士下地さんとともに登壇し、時間の関係上すべてにお答えする事はできませんでしたが、食に関心を持ち参加された方のすこやかな明日へ繋がる時間になったと思います。企画・開催にかかわった浦添市医師会の皆様ありがとうございました。



うらそえ市民公開講座に参加して

牧港中央病院
管理栄養士 下地 千乃



うらそえ市民公開講座にパネリストとして参加させていただきました。
伊是名カエさんの講演を拝聴し、沖縄県の実生活習慣病の現状や改善方法、先人が残してくれた知恵など、とても勉強になりました。

また、会場からたくさんの質問が寄せられ、食事、栄養への関心の高さを実感致しました。飽食の時代となり、食品を選ぶ力が求められる中、沖縄県だからこそできる「島野菜を摂ることで長寿県を取り戻す方法」を皆で実践できたらいいと思いました。

働き盛り世代の健康不安がより深刻です。いつでも相談できる病院の栄養士として今後も浦添市の皆さんの健康維持に携わっていきたく思います。

今回は、貴重な機会をいただきありがとうございました。

うらそえ市民公開講座に参加して

FM21株式会社
パーソナリティ 城前 ふみ



食と健康をテーマとしたうらそえ市民公開講座で、座長(進行)のお手伝いをさせていただきました。特に、専門家の先生方と受講者の方々との架け橋として、時に暖かく、時にユーモアを交え理解を深めることに専念しました。

会場には多くの方々に足を運んでいただき、また、たくさんの質問が寄せられるなど公開講座への関心の高さが伺えました。例えば持病に関するもの、効果的なダイエット、地元の野菜を使った料理方法など多種多様な質問がありました。

これまで沖縄は「健康長寿の島」として世界的に注目を浴びてきました。ところが、食や生活様式の欧米化に伴い、特に近年働き盛り世代の有所見率・生活習慣病による死亡率の悪化が問題となっているようです。

医食同源という言葉があるとおり、栄養バランスのとれた食事は私達の健康長寿を体現する一歩であり、今こそ、古き良き沖縄の食材を見直し、現代の沖縄にマッチした食生活を実践するときではないでしょうか。

私は今回の講座に参加させていただいた経験を活かし、いろいろな場面でより多くのリスナーにこの重要性を広めていきたいと思っています。



洲鎌盛一浦添市医師会長の
開会挨拶



松本哲治浦添市長の
ご挨拶



座長のていーら整形外科
院長 照屋徹先生



パネルディスカッションでは会場の皆さんから多くの質問が寄せられました



皆さまありがとうございました!

第63回 浦添市医師会ゴルフコンペ



日時:令和5年9月23日(土・祝)12:36

場所:琉球ゴルフ倶楽部

比嘉眼科 石田 航



比嘉眼科の石田航と申します。私は2023年5月より東京から期限付きで学外研修している身分でして、院長の比嘉明先生のご指導のもと日々研鑽させていただいております。

さて今回、2023年9月23日秋分の日に、第63回浦添市医師会ゴルフコンペが琉球ゴルフ倶楽部で開催されました。ゴルフ歴3か月の初心者にとってコンペというものは非常に敷居の高い行事でしたが、院長からの熱いお誘いもあり、恐る恐る参加させていただきました。今年の参加者はわずか4名でして、平安病院の平安良雄先生、ていーら整形外科の照屋徹先生、比嘉明先生、そして私、というメンバーのたった1組でラウンドいたしました。スタートは12:30頃で、もう9月も下旬というのに太陽の日差しはキラキラと容赦なく、木々からは蝉たちの割れんばかりの大合唱が聴こえておりました。

念願の初ラウンドがこのような由緒ある格式高いコースとなり、たいそう緊張いたしました。度々5番アイアンで力んでしまい芝をえぐり散らかしたので、キャディさんには若干白い目で見られていた気がします。コース自体は思ったより横幅が広いところが多く、予定よりロストボールは少なく済みました。その一方で、先生方も口を揃えておっしゃっていたようにラフがきつく、非常に苦戦しました。そのような難しい芝の状態からでも毎度しっかりグリーンオンさせる平安良雄先生のアプローチはまさに職人芸で、自分が一番急いでプレーすべきと理解しているにも関わらず、つつい足を止めて見とれてしまいました。

コンペの成績詳細については、次頁をご参照ください。照屋徹先生は優勝と東7のニアピン賞、平安良雄先生は準優勝(&ベストグロス賞)と西8のニアピン賞、おめでとうございます。私のニアピンはまぐれ中のまぐれですが、これもビギナーズラックと素直に喜びたいと思います。

悔しい場面は沢山あったものの、思い出に残る楽しい初ラウンドになりました。これはひとえに、初心者の私に対して優しくアドバイスしながら一緒にプレーして下さった3人の先生方のおかげです。どんなスポーツでも、あるいは医局や職場でも、上級者が初級者に対して威圧的だと息が詰まるようなコミュニティになり、次第に競技人口も減り、盛り上がり欠けてしまうはず。いつの日か自分が成長して初心者とラウンドするときには、今回の先生方のように振舞おうと心に誓いました。

スポーツを通して人々と交流し、新たな仲間を作る。本当に素晴らしいことです。月並みながら、そんなことを帰りの車の中でしみじみ感じた一日でした。来年の春分の日ゴルフコンペでは、今度はより多くの先生方と一緒にできるのを楽しみにしております。最後に、コンペの開催と運営をしてくださった医師会の皆様に大変感謝申し上げます。

第63回浦添市医師会ゴルフコンペ結果

<順位>

優勝	照屋 徹 先生	ていーら整形外科
2位	平安良雄 先生	平安病院
3位	石田 航 先生	比嘉眼科
4位	比嘉明 先生	比嘉眼科

<各賞>

優勝	照屋 徹 先生
準優勝	平安良雄 先生
3位	石田 航 先生
ニアピン賞(4本)	石田 航 先生 (西3)
	平安良雄 先生 (西8)
	石田 航 先生 (東4)
	照屋 徹 先生 (東7)
ブービーメーカー賞	比嘉明 先生



二水会（10月）

医療メディエーションを知る勉強会

日時：令和5年10月11日（水）19:00

場所：浦添市医師会事務局・ZOOM



座長：山本クリニック

院長 山本 和儀 先生

『医療事故やクレーム発生時の医療者と患者の対話の支援 ～医療メディエーターの関わり～』



講師：中頭病院 医療安全推進室

課長 平良 喜美恵 氏

各医療機関では熱心に医療安全に取り組んでいますが、医療事故やヒューマンエラーをゼロにはできない状況において、事故後の初期対応としての医療メディエーションをどう存じでしょうか。

医療メディエーションとは、医療の現場で生じる様々な問題に対して、患者・家族と医療者が向き合う場をつくり、中立的第三者としての医療メディエーターがケア的要素を含む関わりを通じて、双方の対話を紡ぎ、真の情報共有が行えるよう対話を支援し、当事者の自律的な関係調整と問題の克服を促進していく対話のモデルをいいます。

事故後、患者家族は真実を知りたい、当事者に向き合ってほしいと願っています。結果に至る医学的検証の説明だけでなく、そのとき、医療者自身がどう考え、行動したか、当事者だからこそ知る真実の開示を求めています。医療機関側が当事者との対話を回避しようとするほど、患者・家族は強い怒りを抱き、不毛な争いに発展することすらあります。とはいえ、事故後における医療者と患者家族の二項対立では、双方が自分の主張を理解してもらおうと説得的、感情的になって、お互いの溝はより深くなってしまいます。医療メディエーションは、第三の位置に医療メディエーターを置き従来の二項対立ではなく三極構造にして、メディエーターが双方の語りの受け止めと共感の関わりで、双方に分け隔てない位置を保ちながら“問をたてる”という唯一の手段を用いて双方の語りを促していきます。医療メディエーターが問題解決のための道筋を作るのではなく、双方の対話を通して当事者が自律的に問題を克服することへの支援をしていくのです。



夏の日差しが残る気持ちの良いお天気の中スタートしました



先生方、和気あいあいと楽しそうです

照屋徹先生、
優勝おめでとうございます！



（左から）準優勝の平安良雄先生、3位の石田航先生、ブービーメーカー賞の比嘉明先生
おめでとうございます！

当院では十数年前に患者さんがお亡くなりになるという医療事故がありました。事故後、ご遺族と医療側の対話をつなぎ、当事者と共に自宅訪問した際に、ご遺族から関係する医療者に対して「多くの患者さんを助けるように頑張してほしい」という言葉によって、ご遺族も医療者も前を向くことができたのだと思います。十三回忌になる年にご遺族から「今年の十三回忌を覚えていましたか」という連絡をいただきました。ご家族にとって100%の解決はあり得ません。ですが、医療者が顔と顔を合わせることで気持ちが通じる部分もあるのです。

医療メディエーションの実践では直ぐに患者と医療者を話し合いの場につかせず、患者側、医療者側双方に医療メディエーターが一对一で向きあい、それぞれの認識する事実が何か、感情や要求の主張を聴き、それぞれの表面的語りの奥にある潜在的ニーズへの気づきをもとに三極構造の医療メディエーションを行います(時には直ぐに三極構造で行う場合もあります)。

トラブル状況において、私たちはつい怒りや要求の主張に反応してしまいます。「主治医を変えて!」「病棟をかえて!」「退院する!」など、怒りと要求が一塊になった攻撃的主張に反応して、“主治医の変更や転床を検討する”という対応が想像できますが、患者はなぜ主治医や病棟の変更を求めているのでしょうか。語りを拓いていくと、「主治医が最近ちゃんとみてくれないように感じる」「安心した入院生活を過ごしたい」など、表面的な主張の背景には内在する思いやニーズがあることに気づきます。語りを言わせている根源的な関心に気づくことで、問題解消の対応が可能となります。

医療メディエーションでは当事者の語りをIPI分析構造に当てはめて、潜在的欲求への気づきを見出していきます。イシュー、ポジション、インタレストの頭文字でIPI構造といます。先に示した、「主治医や病棟の変更」の主張の奥にある潜在的ニーズへの気づきは、患者家族の語り(ポジション(P))にしっかり耳を傾け、その語りを言わせている潜在的欲求(インタレスト(I))は何かという視点で傾聴すると、「安心して医療を受けたい」ということに気づきます。話題(課題)(イシュー(I))は「主治医変更や病棟の変更」でしたが、「安心して医療をうける」ためには主治医の変更や病棟の変更によって達成するのでしょうか。専門医でない医師への変更や専科でない病棟への変更は逆に危険リスクが増す可能性はないでしょうか。

メディエーションは、このように表面的な語りから潜在的な欲求、思いが何であるかを語りから導いていきます。医療メディエーター研修では、これらIPI展開をロールプレイを通して実践的体験で学んでいきます。

メディエーションの基本はまず聴くということです。患者家族の語りを聞きながら、「この問題を収めるためにはどう説明したらいいか」と、考え聞くのではなく、語り手の認識する事実に間違いや誤解があったとしても、直ぐに訂正や否定をせず、その人の見ている事実を受け止め、不安や悲しみ、辛い思いを共感し、対話が可能な構えがみえてきたら、

質問を通して対話を拓いていきます。

対話が拓かれることによって、潜在的なニーズへの気づきに近づきます。傾聴、受容、共感、質問の基本は、トラブルの場面で実践を試みると、患者家族の変化に気付かれると思います。

医療メディエーションは他職種や職員間、上司とのトラブルの場面や、トラブルへの予防にも活用できる関係調整のしくみです。組織に役職としての医療メディエーターを配置するだけでなく、職員がメディエーションを学ぶことでコミュニケーションに応用できるモデルです。

日本医療メディエーター協会の沖縄支部では、年に1回県内で医療メディエーション研修を開催しております。今年3月の研修でも定員30名の参加がありました。2024年の研修日程が決まり次第、日本医療メディエーター協会ホームページで案内してきます。

沖縄県内に、多くの医療メディエーターが育成され、それぞれの医療機関で活躍することを期待します。

*日本医療メディエーター協会沖縄支部事務局 中頭病院 メールアドレス jahmokinawashibu@nakagami.or.jp

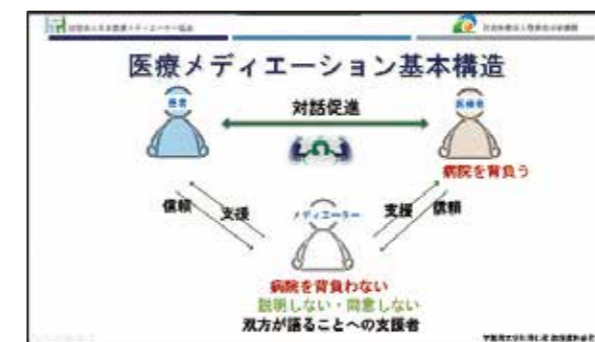


図1

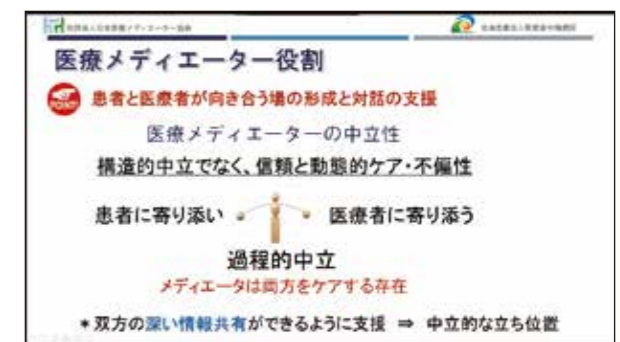


図2

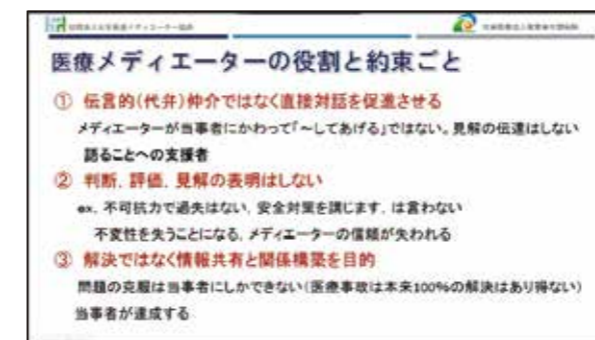


図3

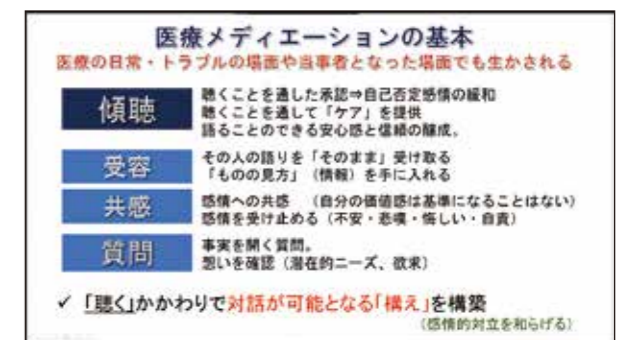


図4

令和5年度多職種連携・浦添市介護支援専門員等従事者研修会(報告)

日時：令和5年9月22日(金) 19:00

場所：浦添市役所9階講堂

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー事務局

去った9月22日(金)に、令和5年度多職種連携・浦添市介護支援専門員等従事者研修会を浦添市地域包括支援センターと合同で開催いたしました。今回は2年ぶりに参加型での開催とし、37名の多職種の皆様にご参加いただきました。

今回の研修会のテーマは「入退院支援」に決定しました。このテーマは令和元年にも研修会を開催しましたが、今回改めて入退院連携支援の在り方を学ぶ機会として開催することとなりました。

「入退院支援シームレス～本人も安心して顔の見える関係を～」と題し、講師に沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科 樋口美智子氏をお招きし、「シームレスな入退院支援について『～入退院支援連携デザインガイドラインから考える～』」についてご講義を賜りました。参加者には医療側と介護側で関わった経験を基に双方の視点から感じたことをグループワークで話し合い発表していただきました。

グループワークについては、議題1「知った、刺さった、うちあたいした！キーワードを書き出そう」、議題2「これから私達ができること。よりよい連携のためのアイデアを出そう」について各グループのファシリテーターを中心に意見交換をしていただきました。

グループワーク後には名刺交換の時間を設け、グループ内外で名刺交換や会話を楽しむ参加者の様子が見受けられました。

また、研修会後のアンケート結果からは、「いろんな意見が聞けてとても勉強になった」や「入退院支援連携デザインガイドラインを活用していきたい」等のご感想をいただき、参加者の皆様が和気藹々とした雰囲気で開催することができました。

今年度も浦添市地域包括支援センターの皆様のご協力をいただき、無事に研修会を終えることができました。また、大変ご多忙の中講師をお引き受けくださりました、沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科 樋口美智子氏をはじめ、グループワークのファシリテーターをお引き受けくださりました皆様にはこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。

今回の研修会の課題や経験を踏まえ、今後もより内容の濃い研修会、参加しやすい研修会を企画していきたいと思っておりますので、引き続きご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



図5



図6



座長の山本クリニック
院長 山本和儀先生



講師の中頭病院 医療安全推進室
課長 平良喜美恵氏



会場からは多くの質問や感想が飛び交いました



浦添市在宅医療・介護連携支援センター市民公開講座(報告)

日 時：令和5年10月21日(土) 14:00

場 所：アイム・ユニバースてだこホール市民交流室

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー事務局

去る10月21日(土)に、「入院したあなたが生活にもどるために～入院、退院、在宅医療・介護について～」と題し、令和5年度浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座を開催いたしました。当日は107名の参加者にご来場いただきました。

市民公開講座を開催するにあたり、地域住民の方々に入院前・入院中・退院後の支援や相談が出来る機関があることを知ってもらい、入院前や退院後に必要なことや心構えなど事前の情報を発信するため、市民公開講座のテーマを「入退院支援」に決定いたしました。

I部基調講演では、新屋洋平先生(医療法人以和貴会 西崎病院 総合診療科 医師/沖縄県医師会 在宅医療・介護連携統括アドバイザー/一般社団法人OHS 沖縄往診サポート代表理事)より、「在宅医療と入退院連携について」と題し、沖縄県の医療・介護の現状や今後の推移、病床の機能による役割分担について、沖縄県・沖縄県医師会発行の命しるべパンフレットや入退院支援の心得について具体的なイメージがしやすく理解が深まる内容でご講演していただきました。

II部のディスカッションでは会場からの質問を取り入れて、ケアプラン天川の介護支援専門員田中宏樹氏に座長と介護支援専門員の立場からご回答をお願いし、基調講演に引き続き新屋洋平先生にご登壇いただき、在宅療養支援診療病の医師の立場からご回答いただきました。パネリストの浦添市地域包括支援センターさっとん社会福祉士の儀間優紀氏には社会福祉士の立場で、那覇市在宅医療・介護連携支援センターちゅいしーじー那覇の在宅医療・介護連携コーディネーターの高江洲アヤ子氏には、病院の医療ソーシャルワーカーの経験を踏まえた立場から会場の参加者から頂いた沢山の質問に対してご回答いただき、充実した内容でディスカッションはあっという間に進みました。

会場の参加者からは、「基調講演の内容が分かりやすかった。参考になった」や「地域で生活していく中で本人の意思を尊重しながら色々な制度やサービスに繋げる為に相談機関や病院などへ相談していく事が大切だと勉強になった」と基調講演のご感想をいただき、ディスカッションでは「質問を回答していくというのがとても良かった。実際不安に感じている事をその場で回答してもらえると今後の不安などもすぐに解消してもらえようような心強さを感じた」、「同じような悩みの話を聞いて良かった」、「座長のユーモアある進行で楽しいディスカッションでした」とのご感想やお言葉をいただきました。

当日のアンケート結果につきましては、うらっしーホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。(http://www.urasshii.com/)

今回の市民公開講座の総合司会をうらっしー運営委員の金城理佳委員(浦添市障がい者(児)基幹相談支援センターてだこの森)をお願いし、会を円滑に進めていただきました。講師をお引き受けいただきました新屋洋平先生はじめ、ご協力いただきました多くの皆様に心より感謝を申し上げます。

<開会挨拶>

ノダ知加子 氏(浦添市地域包括支援センターライフサポート)

<講師・総評>

樋口美智子 氏(沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科 准教授)



司会のノダ氏と講師の樋口氏
笑顔でハイチーズ



講師の樋口美智子氏

グループワークの様子





主催者代表 松本哲治市長



実施運営代表 洲鎌盛一会長 あいさつ



講師の新屋洋平先生



座長の田中宏樹氏



パネリストの高江洲アヤ子氏



と儀間優紀氏



総合司会の金城理佳氏



ご出演ありがとうございました

第 62 回地区医師会連絡協議会(報告)



会長会議 / 協議会

日 時：令和5年11月18日(土) 17:30

場 所：万国津梁館

会長 洲鎌 盛一

2023年(令和5年)11月18日、17時15分より、第62回地区医師会連絡協議会が、公益社団法人北部地区医師会主催(北部地区医師会 上地博之会長)で、名護市万国津梁館にて開催されました。翌日にある恒例のゴルフコンペはありませんでした。コロナ感染症禍の影響で、令和2年より中断されていたので4年ぶりの開催となりました。

浦添市医師会からは私と、銘苅副会長、平良局長他3人がワゴン車をチャーターして万国津梁館に向かいました。県医師会、北部、中部、浦添、那覇、南部、八重山、宮古のそれぞれの沢山の先生に加え事務局の参加もあり会場内は大人気で、久々に盛会となりました。

この日の協議事項は“新型コロナウイルスを振り返って”～各地区の取り組み及び今後の感染症等への展開・課題～について各地区より報告がなされました。各医師会ともコロナ禍の中をどうやって対応し乗り切ったかの工夫・苦労が伺える内容でした。

浦添市医師会からは①浦添地区新型コロナウイルス検体採取センター(PCRセンター)、②浦添市新型コロナウイルスワクチン集団接種、③高齢者施設への医療支援、④新型コロナウイルス感染者への在宅診療等コーディネート業務について報告させていただき、浦添市医師会会員の強い連携体制を強調しました。

特にワクチン集団接種にあたっては、浦添市設置会場(浦添市保健相談センター、浦添市役所、浦添市カルチャーパーク立体駐車場)において令和3年5月8日～令和4年12月28日までの期間に、被接種者;51,016人、従事した医療スタッフ等;2,996人(延べ)、医療従事者等職種内訳;(医師)112人、(看護師・薬剤師)406人、(事務職員)194人でした。この誌面を借りて会員の皆様に深くお礼申し上げます。

報告事項として、北部地区医師会副会長の宮里達也先生から2028年度開院予定“公立沖縄北部医療センターの設立経緯”に関してお話がありました。

沖縄県医師会長の挨拶のあと、次回、令和6年度は浦添市医師会が当番のため、私たち会員一同でおもてなしすることを出席された皆様にお伝えしました。

浦添市医師会の協議会では翌日の親睦ゴルフコンペも予定していますので、ゴルフ達者の先生方のご参加をぜひよろしくお願いいたします。

追伸です。今回の協議会終了後には万国津梁館内での豪華な食事会が催され、また地元名護でとれたシークワサーのお土産を頂き暖かいおもてなしを受けました。北部地区医師会の皆様に感謝いたします。



協議会の様子

4年ぶり開催

令和5年浦添市医師会忘年会

日時：令和5年12月13日（水）19：30

場所：ラグナガーデンホテル羽衣の間

浦添市医師会事務局

新型コロナウイルス感染症流行により中止が続いていた当会忘年会が4年ぶりに開催されました。

浦添市医師会員の先生方をはじめ、松本哲治市長以下多くの浦添市役所職員、浦添市社会福祉協議会をはじめとする地域関係団体や自治会職員の皆さん等、およそ120名の参加があり、コロナ明けも相まって、この1年の締め括りに相応しい大盛況の忘年会となりました。

冒頭の洲鎌盛一会長による浦添市医師会活動報告があり、この3年以上に及ぶ新型コロナウイルス感染症対応についての振り返りを受けて、松本市長が当時の出来事（PCR検体採取センター、コロナワクチン集団接種など）をしみじみと回想するご挨拶に、この間の時間軸の長さを実感しました。

恒例の福引き抽選会では、今年開業された小暮泰大先生（美ら島クリニック）、木村聖美先生（乳腺・甲状腺クリニックうらそえ）、石川貴代先生（ひびき内科クリニック）の初顔紹介も兼ねてクジを引いていただき、抽選会を盛り上げて下さいました。

初司会となりました照屋徹先生（ていーら整形外科）と村山綾乃さん（星詠みラジオパーソナリティ）も絶妙なコンビネーションでスムーズな進行を務めていただき感謝申し上げます。

盛会のうちに幕を閉じた忘年会でしたが、新たな令和6年（辰年）もまた皆様のご活躍とご多幸を祈念し、年末の忘年会でお会いできることを楽しみにしております。



会場の様子



会場の様子



福引き大会の1等賞は牧港中央病院の嘉陽事務長が引き当てました！皆さまおめでとうございます！



(会長挨拶)
洲鎌盛一会長

(開会挨拶)
銘苅晋副会長

(来賓挨拶)
松本哲治浦添市長



(乾杯の音頭)
比嘉耕一先生

(閉会の挨拶)
宮良球一郎副会長

(司会)
村山綾乃さん 照屋徹先生

入会・退会・異動報告 (令和5年9月～12月理事会)

入 会			
氏 名	医療機関名	診療科目	入会年月日
譜久山 滋	ありんクリニック小児科	小児科	R5.10.1

異 動			
氏 名	医療機関名	異動事由	異動年月日
銘苅 晋	浦添総合病院	施設所在地変更(移転)	R5.12.1
平安 明	平安病院	法人名変更	R5.12.1

退 会			
氏 名	医療機関名	退会事由	退会年月日
伊藤 優	くららクリニック	退職	R5.8.31
小林 史明	浦添総合病院	医師会の異動	R5.9.15
座波 健哉	浦添総合病院	医師会の異動	R5.9.30
平良 勝彦	丸勝中央クリニック	御逝去	R5.11.4
野田 寛	補聴相談のひろば	閉院	R5.12.31

訃 報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和5年11月4日御逝去

故 平良 勝彦 先生 (享年 80 歳)

丸勝中央クリニック 院長

役員歴：浦添市医師会裁定委員 (8期 15年：平成8年4月～平成10年3月、
平成24年4月～令和5年11月)

浦添市医師会理事 (3期 6年：平成10年4月～平成16年3月)

表 彰

(令和5年度)

沖縄県医事功労者県知事表彰

宮 良 球一郎 先生 (宮良クリニック)

沖縄県医事功労者医師会長表彰

末 吉 惟 純 先生 (末吉内科外科胃腸科医院)

新 里 研 二 先生 (新里眼科医院)

辺野喜 英 夫 先生 (自宅会員)

比 嘉 耕 一 先生 (ひがハートクリニック)

大 濱 篤 先生 (まちなと内科在宅クリニック)

藏 下 要 先生 (浦添総合病院)

～この度の受賞、誠にありがとうございます～

理事会報告（令和5年9月～12月）

令和5年9月19日（火）19:00

1. 会議・委員会等参加報告
 - ・令和5年度第1回沖縄県医師会勤務医部会役員会について
2. 浦添市新型コロナワクチン接種実施計画（令和5年秋接種開始）について
3. 第150回浦添市医師会学術講演会について
4. 令和5年度多職種連携・浦添市介護支援専門員等従事者研修会について
5. 第63回浦添市医師会ゴルフコンペについて
6. 浦添市医師会10月二水会について
7. 令和5年度浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座について
8. 案内事項
 - ・琉球大学医学部新任教授記念講演ならびに懇親会について
9. 承認事項
 - ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023おきなわへの寄付について
 - ・沖縄県薬物乱用防止協会への寄付について
 - ・令和5年度浦添市社会福祉協議会特別会費納入について
 - ・令和5年度浦添市高齢者インフルエンザ予防接種委託料見積書について

令和5年10月16日（月）19:00

1. 入会・退会・異動報告
2. 会議・委員会等参加報告
 - ・感染症法上に基づく医療措置協定締結に向けた事前調査に関する説明会について
 - ・地区医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡会議について
 - ・新型コロナウイルス感染症に係る病院長会議について
 - ・令和5年度第1回おきなわ脳卒中地域連携委員会総会について
 - ・令和5年度第3回沖縄県医師会地域包括ケア推進委員会について
 - ・令和5年度第2回外国人医療対策委員会について
3. 令和5年度浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座について
4. 第151回浦添市医師会学術講演会について
5. 第62回地区医師会連絡協議会について
6. 確認事項
 - ・今年の浦添市医師会忘年会について

7. 案内事項
 - ・琉球大学医学部新任教授記念講演並びに懇親会について
 - ・「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023おきなわ」について
 - ・令和5年度永年勤続医療従事者表彰式ならびに懇親会について
 - ・令和5年度かかりつけ医等心の健康対応力向上研修について
8. 承認事項
 - ・令和6年度浦添市がん検診見積書について

令和5年11月20日（月）19:00

1. 入会・退会・異動報告
2. 会議・委員会等参加報告
 - ・第62回地区医師会連絡協議会について
3. 令和5年度浦添市医師会忘年会について
4. 浦添市CKD・糖尿病性腎症対策講演会～うらそえ腎腎プロジェクト～について
5. 案内事項
 - ・令和5年度かかりつけ医等心の健康対応力向上研修について
 - ・移転開院について 12月1日 浦添総合病院 12月4日 名嘉村クリニック
 - ・2024年浦添市新年祝賀会について
 - ・かりゆし白衣の販売について
6. 承認事項
 - ・第12回浦添市ボランティア連合会芸能祭協賛広告について

令和5年12月18日（月）19:00

1. 入会・退会・異動報告
2. 会議・委員会等参加報告
 - ・入院医療機関の役割分担シミュレーション研修報告について
3. 第152回浦添市医師会学術講演会について
4. 令和6年浦添市医師会旧正新年会について
5. 浦添市医師会糖尿病対策講演会について
6. 連絡事項
 - ・くららクリニックの閉院について
 - ・藏下要副会長の医師会活動復帰について
7. 来月（1月）の会議日程について

講演会・研修会等のご案内

予定が変更になることもございます。ご了承ください。

日時	講演会・研修会・行事名	場所	講師	日医生涯教育制度 カリキュラムコード
1/17(水) 19:00	第152回 浦添市医師会学術講演会	浦添市医師会・ZOOM	座長:仲村健太郎先生 (浦添総合病院 病院長補佐兼循環器内科不整脈部長) 講師:楠瀬賢也先生 (琉球大学大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学講座 教授)	1(医師のプロフェッ ショナルリズム) 9(医療情報)
1/26(金) 19:00	浦添市認知症ネットワー クミーティング	浦添市医師会・ZOOM	講師:遠藤一博先生 (嶺井第一病院 脳神経内科)	—
2/9(金) 19:00	浦添市医師会旧正新年会	ホテルアラージュオキナワ 9階カフェ&ダイニング アコサ	—	—
2/29(木) 19:00	糖尿病医療連携講演会	名嘉村クリニック SOMNOホール	座長:調整中 講師:永山盛隆先生 (友愛医療センター 人口関節センター長)	調整中
3月開催予定 19:00	第153回 浦添市医師会学術講演会	浦添市医師会・ZOOM	調整中	調整中
3/20(水) 07:00	第63回 浦添市医師会ゴルフコンペ	琉球ゴルフ倶楽部	—	—
3/25(月) 19:00	第64回 浦添市医師会定時総会	浦添市医師会	—	—
4/10(水) 19:00	二水会	浦添市医師会・ZOOM	外国人診療に関する勉強会(予定)	—
5/15(水) 19:00	第154回 浦添市医師会学術講演会	浦添市医師会・ZOOM	調整中	調整中
6/12(水) 19:00	二水会	浦添市医師会・ZOOM	調整中	—
6/24(月) 19:00	第65回 浦添市医師会定時総会	浦添市医師会	—	—

※浦添市在宅医療ネットワーク世話人は毎月開催しております。詳細が決まり次第ご連絡申し上げます。

事務局からのお知らせ

浦添市医師会ホームページ掲載情報について

浦添市医師会ホームページでは会員医療機関の診療時間などを掲載し、広く情報公開をしています。診療時間、受付時間、診療科目の変更・追加などがある時は、浦添市医師会事務局へご一報下さいますようお願いいたします。

浦添市医師会事務局

TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362
E-mail:info@uraishi.or.jp http://www.uraishi.or.jp

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー 専用電話番号のご案内

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしーの専用電話番号を設置しています。在宅医療・介護等についてのご相談はこちらの番号へおかけ下さい。FAXでのご相談の場合は、これまで通り浦添市医師会と共有です。

うらっしー専用電話番号 TEL:098-894-2698

弔事に係るご連絡について(お願い)

浦添市医師会では浦添市医師会運営規定に基づき、会員並びに会員の親等以内の親族の方が亡くなられた際は、供花、香典と共に新聞に弔慰広告を掲載し、弔意を表すこととなっております。

供花等を供する際の必要事項を記入する様式を備えておりますので、そのようなきは浦添市医師会へお電話にてご連絡下さい。

浦添市医師会 TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362
沖縄県医師会 TEL:098-888-0087 FAX:098-888-0089

浦添市医師会報へ掲載する表紙写真・会員寄稿 病院だより・診療所だより等のご寄稿を募集しております

本会では会報を年3回発行しており、よりおもしろく、よりためになり、親しみのある紙面作りをめざしています。

会報の表紙を飾る写真の投稿、随筆、書評、趣味の話・・・など、先生方の多岐にわたるご寄稿をお待ちしております。

昨今のコロナ禍で各種講演会等が延期となり、会員間の情報共有が取りづらくなっております。そこで、浦添市医師会報誌面を活用し、会員間、病院—診療所間の交流や各施設の情報提供などを目的として「病院だより」「診療所だより」のコーナーを設けております。お知らせ等お気軽にご寄稿いただけますと幸いです。

原稿は随時募集しておりますので、メールまたは郵送にて浦添市医師会あてお送りくださいますようお願いいたします。

メディカルスタッフの皆様にも、本会会報へのご投稿について、どうぞお声かけ下さいますようお願いいたします。

寄稿仕様

①表紙の写真

写真タイトル・表紙のこぼ(簡単な説明)・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、浦添市医師会あてメールまたは郵送にてお送り下さい。

②随筆・書評・趣味の話・その他

タイトル・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、日常診療のエピソード、紀行文、書評、趣味などお気軽にご寄稿下さい。

③病院だより・診療所だより

タイトル・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、ご投稿ください。お知らせや診療についてのご案内等お寄せください。

※メールでお送り下さる場合は、件名に「浦添市医師会報寄稿」とご入力下さい。
頂きましたご連絡先は、校正等のご連絡に使用させていただきます。

★会報に関する問い合わせ先★

浦添市医師会事務局 〒901-2132 浦添市伊祖3-3-1 アルマーレ101

TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362

Email:info@uraishi.or.jp

2024年FM21「ゆんたく健康トーク」出演予定表

(2024年1月～12月)

1月		2月	
8日	稲福内科医院	12日	山本クリニック
22日	まえだクリニック	26日	牧港中央病院
3月		4月	
11日	名嘉村クリニック	8日	池村クリニック
25日	浦添さかい眼科	22日	まちなと小児クリニック
5月		6月	
13日	浦添総合病院	10日	具志堅循環器・内科
27日	徳山クリニック	24日	たつや整形外科
7月		8月	
8日	同仁病院	12日	比嘉眼科
22日	なしろハルンクリニック	26日	ていーら整形外科
9月		10月	
9日	嶺井第一病院	14日	宮良クリニック
23日	介護老人保健施設エメロードてだこ苑	28日	マンマ家クリニック
11月		12月	
11日	キンザー前クリニック	9日	みやざと内科クリニック
25日	幸喜内科 糖尿病・甲状腺クリニック	23日	平安病院

ラジオ
番組

浦添市医師会提供

「ゆんたく健康トーク」

毎月第2・第4月曜日

毎週月曜日 午後8時～9時

月2回

FM21 (76.8Mhz) で好評放送中！

FM21「ゆんたく健康トーク」 ♪♪ 放送形態変更のご案内 ♪♪

「FM21ゆんたく健康トーク」は、令和6年1月より
毎月第2・第4月曜日の午後8時からの放送となります(月2回)。

会員施設のみなさまには引き続き
ご出演・ご視聴いただきますようお願い申し上げます。